

いわき米づくり情報 特別号

～出穂予想と低温・日照不足への対応～



令和元年7月12日 発行

編集者：いわき農林事務所農業振興普及部
JA 福島さくらいわき地区本部営農販売課

1 気象経過について

【これまでの気象経過】

6月29日から最高気温が25℃を下回り、7月4日以降は最高気温の平年値を下回っている。

【今後の見通しについて】

今後1週間（～7月16日）は最高気温、最低気温が「平年並み」か「平年より低い」見込み。
低温・日照時間の少ない状態は、今後2週間程度は続く見込み。

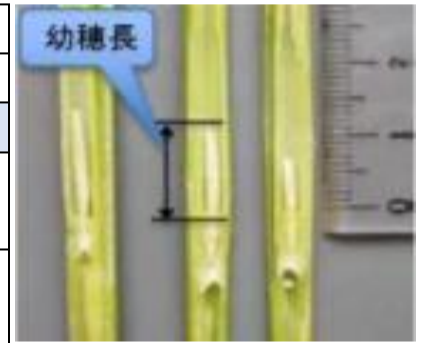
2 障害型冷害（不稔籾の発生）について

【不稔籾の発生要因】

- ①生育ステージが幼穂形成始期（幼穂長0.1cm）～減数分裂期（幼穂長8cm）
- ②平均気温が20℃以下、または最低気温が17℃以下に当たる
- ③耐冷性が弱い品種

【現在の生育ステージ】

地域		平坦地域（標高0～400m）		
品種		コシヒカリ	天のつぶ	ふくひびき
耐冷性		極強	やや強	やや弱
幼穂長	5月上旬～ 5月中旬移植	0～0.2cm (8月6日頃)	0.5～1.0cm (7月29日頃)	1.0～2.0cm (7月25日頃)
	5月下旬～ 6月上旬移植	0.0cm（節間伸長アリ） (8月10日頃)	0.0～0.1cm (8月8日頃)	0.1～0.2cm (8月4日頃)



※（）内は予定出穂時期。日照時間、土質によって多少変化します。

地域		中山間地域（標高400～600m）		幼穂の発達段階	出穂前日数	幼穂長（cm）
品種		ひとめぼれ	里山のつぶ			
耐冷性		極強	極強	幼穂形成始期	26	0.1
幼穂長	5月上旬～ 5月中旬移植	0.1～0.2cm (8月4日頃)	0.5～1.0cm (7月29日頃)		24	0.15
	5月下旬～ 6月上旬移植	0.0cm（節間伸長アリ） (8月10日頃)	0.0～0.1cm (8月8日頃)		20	0.2
					18	0.8～1.5
					14	4.0～6.0
				減数分裂期	12	8.0
				穂ばらみ期	6	18.0

※（）内は予定出穂時期。日照時間、土質によって多少変化します。

【対策】

- ① 最低気温が17℃を下回る予報が出された際には深水管理（水深15cmを目標）を実施する。
※ただし、深水管理を続けると茎が軟弱徒長して、倒伏する原因になるため注意する。
- ② 特に「ふくひびき」は耐冷性が「やや弱」であるので、十分に注意する。

3 天候不順による斑点米の発生リスクについて

【天候不順と割れ籾】

- ① 幼穂形成期（出穂15～25日前）は籾の大きさを左右する時期。
- ② 幼穂形成期の低温で籾の大きさが小さくなる可能性が高くなる。
- ③ 登熟期間の天候が良いと、小型籾から割れ籾の発生が増加する。

【斑点米カメムシ類の発生状況】

- ① 本年は「アカスジカスミカメ」が中心である。
- ② 「アカスジカスミカメ」は籾の割れた部分から吸汁する。

【斑点米カメムシ類対策】

- ① 斑点米カメムシ類は乳熟期に籾を加害します。
- ② 加害部分は表面が溶け、雑菌が繁殖して「斑点米」になります。
- ③ 斑点米カメムシ類の防除適期は乳熟期（出穂7～10日後）です。
- ④ 殺虫剤で「カメムシ」に登録のある農薬を使用しましょう。

